



糖尿病(とうにょうびょう)は

「尿に糖が出る病気」なの？⑨(最終回)

では前回号に続いて「糖尿病網膜症」の解説を引用したいと思います。日本眼科学会のホームページからの引用です。ちなみに長期間に渡った「糖尿病関連の眼科」についての連載は今回が最終回となります。

http://www.nichigan.or.jp/public/disease/momaku_tonyo.jsp

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

■糖尿病網膜症の治療

(1) 網膜光凝固術

網膜光凝固術にはレーザーが用いられ、通常は通院で行います。網膜光凝固術は主に網膜の酸素不足を解消し、新生血管の発生を予防したり、すでに出現してしまった新生血管を減らしたりすることを目的として行います。光凝固は正常な網膜の一部を犠牲にしますが、全ての網膜が共倒れになるのを防ぐ

ためにはやむを得ません。この治療で誤解を生みやすいのは、今以上の網膜症の悪化を防ぐための治療であって、決して元の状態に戻すための治療ではないということです。まれに網膜全体のむくみが軽くなるといったような理由で視力が上がることもありますが、多くの場合、治療後の視力は不変かむしろ低下します。網膜症の進行具合によって、レーザーの照射数や照射範囲が異なります。網膜光凝固術は早い時期であればかなり有効で、将来の失明予防のために大切な治療です。

(2) 硝子体手術

レーザー治療で網膜症の進行を予防できなかった場合や、すでに網膜症が進行して網膜剥離や硝子体出血が起こった場合に対して行われる治療です。眼球に3つの穴をあけて細い手術器具を挿入し、目の中の出血や増殖組織を取り除いたり、剥離した網膜を元に戻したりするものです。顕微鏡下での細かい操作を要し、眼科領域では高度なレベルの手術となります。

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

これで引用の文章は終了となります。上記での重要なポイントは『(レーザー)治療後の視力は不変かむしろ低下します。』という一文です。糖尿病網膜症の治療は原則が「失明の予防」であり、「視力の改善」ではありません。レーザー治療は保険適応ですが、機器が高価なため自己負担分の治療費が高額になります。「そんな高額な値段を支払うのに視力がむしろ下がるのか?!」は患者心理からすれば疑問に思っただけですが、実際にそうした事は起こるのです。ご理解頂きたいと思います。

また、「糖尿病網膜症の治療」に関しては補足の説明が必要で、最近では上記のレーザー治療や手術以外に、眼球に注射をする治療も頻繁に行われています。抗 VEGF(コウブイイージーエフ)という

名前の薬剤を注射するのですが、元々は加齢黄斑変性症や網膜静脈閉塞症(二つとも眼底出血の一種)の治療に用いられていた治療方法で、糖尿病網膜症の病態の中でも特に黄斑浮腫(≒糖尿病黄斑症)と呼ばれる病態(※フジタガンカニュース Vol.89 参照)に対して効果があると考えられています。他にもステロイド剤という薬剤を白目に注射したりとか、色々な治療が行われていますが、かなり専門的な説明が必要となりますので、今回のフジタガンカニュースでの解説はここまでとさせていただきます。また、新しい注射の治療は良い治療法ですが、レーザー治療や手術治療が必要なくなった訳ではなく、現実的にはその3つの方法を病態に応じて組み合わせる治療が行われます、誤解のないようご注意ください。さて、次回からのフジタガンカニュースですが…「白内障(はくないしょう)」についての解説を予定しております。白内障とは眼球の内部で「レンズ」の役割を担う「水晶体(すいしょうたい)」という組織が混濁してしまい視力が低下する疾患です。1番多い原因は老化現象で、老化による白内障患者さんでは、手術が必要となるおおよその平均年齢が75歳です。もちろん個人差もありますので75歳以上でも白内障が手術を受けなければならないほど進行しない方もいらっしゃいます、ご安心下さい。例えば75歳前後で「年齢の近いお友達が白内障の手術を受けて調子が良い」なんていう話ってよく聞きますよね?でもたまに…「年齢の近いお友達が白内障手術を受けたけど調子が悪い」なんていう話も聞くことがあるかも知れません。手術が失敗という訳ではないのですが「手術そのものとの相性が悪い方」というのも存在するようです。白内障の病態はレンズが濁る事での視力低下です。簡単に説明すると「濁ったレンズを取り除く作業」を最初に行います。そして、そのままでは「レンズなしのピンボケな見え方」になってしまいますので、「人工レンズ」を眼内に埋め込む作業を行います。つまり手術後はこの人工レンズを通した見え方になり、御自身の若い頃のようなとても良い見え方に戻る訳ではないのです。あくまでも人工レンズを通した見え方となるため、こうした「人工レンズ」との相性の良し悪しによって手術後の見え方満足度が、患者さんそれぞれに大きく異なるという事になる訳なのです。つまり手術は大成功なんだけど、患者さんとしては失敗なんじゃないかなと思う…なんていう事も起こり得る訳なのです。

それでは次回号もお楽しみに(^ ^)/



<http://www.fujita-ganka.com>

今月のお知らせ

季節もだいぶ春めいて来まして、桜も綺麗ですが…花粉症は真っ盛りですね！
気になる症状がある方はご相談下さい。

FUJITA-EYE-CLINIC

藤田眼科

エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)

P-Vision

☎042
(645)
0575
☎042
(642)
2911